資料４　用語集

高次脳機能障害 higher-brain dysfunction
生理学的定義は、学習した知識に基づいて行動を計画し、実行する脳の働き。脳の諸連合野を統合的に働かせて行われる複雑な機能。いっぽう行政的には、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などを主たる原因として、日常生活および社会生活への適応に困難を有する一群の障害と定義される。

【疾病等に関する用語】

外傷性脳損傷（脳外傷）traumatic brain injury:TBI
機械的な外力によって脳の生きた組織が損傷されること。一般に、数分から数ヶ月以上のさまざまな長さの意識変調（健忘や昏睡など）を伴う。運動、知覚・認知、知的・情緒的機能などの障害を起こす。原因として、脳血流不全、中毒、悪性腫瘍、寄生生物、先天性疾患、出生児外傷、変性疾患などによる脳損傷を除く。

脳外傷（開放性）brain injury、 open
頭皮と頭蓋骨を穿通して脳組織の損傷を起こした外傷。

びまん性軸索損傷 diffuse axonal injury dai
脳外傷時の剪断力によって、脳のさまざまな部位でミエリンに包まれた太い神経軸索線維が損傷された状態。同様の剪断力が血管に働くと脳出血が起こる。

脳血管障害 cerebral vascular accident (cva or stroke)
脳血管の栓塞、梗塞、出血など。

脳出血 cerebral hemorrhage
大脳の血管からの出血。

脳梗塞 cerebral infarct
脳血管壁の凝血と壊死の部位で脳血流が遮断され、その血管が支配していた神経組織の機能障害が起きた状態。

くも膜下出血 subarachnoid hemorrhage；SAH
脳動脈瘤や脳動静脈奇形などの脳血管病変が破綻し、くも膜下腔に出血した病態。

動脈瘤 aneurism
動脈壁の弱い部分が腫脹あるいは拡大している状態。脳動脈瘤の破裂は脳くも膜下出血の原因となる。

くも膜下出血（外傷性）subarachnoid hemorrhage、traumatic
頭部外傷に伴い、脳表面の静脈破綻によるくも膜下腔への出血。脳挫傷などを合併することが多い。

脳挫傷 brain contusion
脳組織の挫滅による損傷で毛細血管からの出血がある。

脳炎 encephalitis
単純ヘルペスあるいは日本脳炎ウイルスなどが脳に感染して、急性、亜急性あるいは慢性に経過する。意識障害、痙攣、脳局所症状などを呈し、健忘などの後遺障害を残すことがある。

脳死 brain death
非可逆性の昏睡状態で、大脳及び脳幹部が機能しなくなっている。

脳振盪 concussion
脳外傷の結果起こる可逆的な神経機能の障害で、一時的な意識の喪失や混乱を伴う。

脳栓塞 cerebral embolism
血流に運ばれてきた凝血塊が脳動脈に詰まり、突然血流を途絶させた状態。

脳内出血 intracerebral hemorrhage
脳挫傷においては、脳実質内に小さな、多発性の出血が合併する。

脳膿瘍 brain abscess
脳の中に、組織の破壊によって生じた膿が貯まっている状態。

反衝〔脳〕損傷 contra coup
頭部への衝撃の対側に脳損傷が起こる現象。

軽症脳損傷 brain injury、 mild
軽症脳外傷の患者は、外傷に起因する生理的な脳機能障害を起こし、その症状は、1） さまざまな期間の意識喪失、2） さまざまな程度の受傷前後のエピソード記憶喪失、3） 受傷時のさまざまな精神機能変化（見当識障害、昏迷など）、4） 一過性あるいは永続的な局所神経症状。ただし a)意識喪失の期間が 30 分を超えず、b） 30 分後の Glasgow Coma Scale スコアが 13 から 15 あり、c)外傷後健忘の期間が 24 時間を超えない。

後天性脳損傷 brain injury (acquired)
正常の胎内成長と出産、そして発達を遂げた後に、何らかの脳損傷によって脳機能障害を起こした場合。

無酸素性脳症 anoxic encephalopahty
脳へ供給される酸素が不足するために起こる脳症。脳症が高度であれば、植物状態や脳死に至る。海馬や大脳皮質が障害されやすい。

蘇生後脳症 postresuscitation encephalopathy
心肺停止症例で、蘇生後に発生する中枢神経障害。軽症のものから植物状態や脳死のような重篤なものまである。

脳浮腫 brain edema / cerebral edema
脳組織内の水分量が増した状態で、脳は腫脹する。

脳圧・頭蓋内圧 intracranial pressure (ICP)
脳を取り囲む脳脊髄液腔に刺入した針によって脳脊髄圧 Cerebrospinal fluid (CSF) pressure を計測すると、これが頭蓋内圧を反映する。大きな脳外傷では全般的な脳浮腫と頭蓋内圧上昇が起こる。頭蓋内

圧上昇は、脳損傷部位から離れた部位の脳細胞の一時的な機能低下を起こす。頭蓋内圧上昇や脳浮腫が長期になると、脳表面が頭蓋骨に押しつけられて扁平化し、軸索がちぎれ、脳循環が障害され、また破壊された脳細胞が周囲の脳細胞に対し有害な化学物質を産生する。

脳可塑性 brain plasticity

損傷された脳細胞の機能を損傷されていない細胞が代償すること。可塑性は脳が発育するとともに少なくなる。

水頭症 hydrocephalus

脳脊髄液の貯留によって脳室が拡大している状態。

VP シャント（脳室腹腔シャント）ventriculoperitoneal shunt: VP shunt

水頭症などで側脳室内に過剰に貯留した脳脊髄液を、手術で皮膚の下に埋め込んだ短絡管（シャントチューブ）を介して腹腔内に導き頭蓋内圧亢進を治療する手術法。髄液圧の調節は短絡管の途中に設けられたシャントバルブと腹腔管先端で行われる。

てんかん epilepsy

脳神経細胞の過度なあるいは病的な電気発射に起因する神経症状で、意識状態の変化や全身けいれんなどの発作を反復する脳の慢性疾患。

てんかん発作 epileptic attack (seizure)

脳神経細胞の過度あるいは病的な電気発射が、近くの脳細胞あるいは脳全体に広がり、数分持続する意識障害・尿便失禁・四肢の痙攣などを示す。全般発作と部分発作に大別され、全般発作には強直間代痙攣発作や欠神発作、脱力発作などがある。部分発作は一側半球の限局された部位から起こる。

てんかん重積状態 status epilepticus

てんかん発作が短い間隔をおいて 30～60 分以上の間に繰り返し起こり、意識障害から回復しない状態。全身性のけいれん発作が重積する場合、心機能低下や呼吸麻痺などを起こし死亡する場合もある。

外傷後てんかん posttraumatic epilepsy

一般に脳外傷後 1 週間以降に初発するてんかん。最初のてんかん発作は、閉鎖性外傷では 2 年以内、開放性外傷では 10 年以内が多い。脳損傷型では、意識喪失時間あるいは健忘時間が長いほど、また硬膜以下に損傷の及んだ場合に発生頻度が高い。

症候性てんかん symptomatic epilepsy

脳外傷、脳腫瘍、脳血管障害などの器質的病変が原因となって生じたてんかん。

抗てんかん薬 anticonvulsant

てんかん発作が起こる可能性を低くするための薬物で、フェニトイン、フェノバルビタール、バルプロ酸、カルバマゼピン、プリミドン、ゾニサミドなどがある。

通過症候群 transitional syndrome

意識障害からの回復過程で、一次的に見られる精神症状。

人工呼吸器 artificial ventilator

意識障害などがあって自発呼吸に問題がある患者に使用し、呼吸を維持する器械。加湿され、必要な酸素濃度のある空気を、適切な圧と頻度で気管内に送る。

うつ状態 depressive state

うつ病以外の疾患で、不眠などの身体症状とともに憂うつ気分が強くみられる症状。大脳左半球前方の病変による場合と、脳損傷の慢性期、障害に対する自己認識が進むことや，行動上の失敗を繰り返していくなかで、２次的に抑うつが生じる場合とがあるとの見解が示されている。

抗うつ薬 antidepressants

うつ病あるいはうつ状態を治療する薬物。

遷延性植物状態 persistent vegetative state pvs

発語、従命反応、あるいは意味ある反応を示さない状態が、長期に亘って続いている。

閉じこめ症候群 locked in syndrome

下部脳幹と脊髄をつなぐ橋腹側の運動神経路が損傷された状態。覚醒していて、感覚刺激を受け取ることができるが、構音器官、四肢および体幹に麻痺があり、まばたきや顎、眼球など限られた運動を用いる以外は他者とコミュニケーションできない状態。遷延性植物状態とは異なる。

予後 prognosis

病気や怪我からの回復についての予測。

【身体障害についての用語】

対麻痺（両下肢麻痺）paraplegia

両下肢の麻痺。

片麻痺 hemiplegia

身体の半側の麻痺で、通常は対側脳の損傷が原因。

装具 orthosis

運動機能改善や安定性向上を目的に使用される道具。

眼振 nystagmus

眼球が、不随意的に水平、垂直あるいは回旋性に動く症状。

振戦（安静時）tremor、 resting

随意的な動きで減少することのある、安静時の規則的に反復する身体の動き。

振戦（企図性）tremor、 intention

患者がコントロールしようとすると動きが激しくなる、身体の一部分の粗い、規則的に反復する動き。

摂食嚥下障害 dysphagia

食物を嚥下しやすいように口の中で形作ったり、口内から食道方向へ送り込むことの障害。

体幹運動失調 truncal ataxia

小脳、大脳、脳幹、脊髄、前庭などの機能障害が原因で、体幹部に運動失調症状を呈し、座位や起立姿勢保持あるいは歩行困難などを呈する。

半盲 hemianopsia
両眼の視野の半分が失われている症状。

同名半盲 homonymous hemianopia
両眼の視野の同側半分が失われている症状。

皮質盲 cortical blindness
後頭葉の視中枢の損傷による視力障害。対光反射が残っている。

複視 diplopia
一つの対象が二つに見える症状。

輻輳 convergence
近くの対象物に焦点を合わせるために両眼が同時に内側へ動くこと。

平衡障害 equilibrium disturbance
円滑な姿勢変化や安定した歩行ができなくなる平衡（バランス）の障害で、視覚系・前庭系・固有知覚系からの入力と脳幹での統合が、何らかの原因で障害を受けたために生ずる。

平衡 balance
直立位を保つための、適切に立ち直りと平衡反応を用いる能力。座位と立位で検査を行う。

嗅覚喪失 anosmia
臭いの感覚が失われている症状。

能力障害 disability
人間が正常なやりかたで行う活動を、機能障害の結果行えなくなること。

【画像診断や評価などについての用語】

＊診断

ICD-10 International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems、10th Revision；ICD-10
世界保健機関（WHO）により定められ、疾病、障害および死因の統計に用いる分類で、1900 年以来 10 年ごとに修正されてきた。

DSM-IV Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, version four
米国精神医学会が作成した精神疾患の診断・統計マニュアル。現在、第 4 版（DSM-IV）が出版されている。

核磁気共鳴画像 magnetic resonance imaging：MRI
核磁気エネルギーを用いて、軟部組織、中枢神経系、筋骨格系などの画像を作り出し診断に用いる。

機能的 MRIfunctional MRI；fMRI
MRI を用いて脳機能などを計測する手法。

CT スキャン CT scan
Ｘ線撮影データをコンピュータ処理し、身体をいくつかのレベルでスライスした画像に構成する方法。

スペクト single photon emission computed tomography；SPECT
体内に注入されたアイソトープから放射されるγ線を体外で検出し、体内分布を断層像で表示する撮像法。→脳血流シンチグラフィ

脳血流シンチグラフィ cerebral blood flow scintigraphy
体内へ注入され、脳内へ入る放射性アイソトープを用い、体外から脳実質内の血流状態を画像化する脳機能検査法。→スペクト

ペット（ポジトロン CT）：PET positron emission tomography；PET
陽電子放出核種から放出された陽電子（ポジトロン）が、周囲の電子と結合して消滅する際に放出されるγ線を検出し、血流、酸素やブドウ糖などの代謝、神経伝達物質の受容体などの生化学的機能に関する情報を測定する。

脳波 electroencephalogram eeg
電極を頭皮上に置いて脳の電気活動を記録する方法。てんかん、意識障害あるいは脳死の診断などに用いられる。

脳圧モニターintracranial pressure (ICP) monitor
側脳室などの脳脊髄液腔にチューブを挿入し、これを電気的な圧計測装置に接続して、頭蓋内圧を観察、記録する方法。

脳血管撮影 cerebral angiogram
動脈に造影剤を注入し、Ｘ線撮像された脳血管を観察する検査。

＊意識障害の検査

グラスゴー昏睡尺度 Glasgow Coma Scale：GCS
脳外傷による脳機能障害の程度を評価する標準化された方法。開眼 Eye、言語反応 Verbal、運動 Motor 反応を独立して数値で評価し、これが意識状態あるいは障害の程度を表す。GCS 評価点数の 13 から 15 は軽症、9 to 12 中等症、8 以下は重症脳外傷と判断される。E3V2M4=GCS9 のように表現する。

ジャパン・コーマ・スケール（日本昏睡尺度、3-3-9 度方式）Japan Coma Scale；JCS
わが国で提唱された昏睡尺度の 1 つ。意識レベルを①覚醒しているか（Ⅰ桁）、②閉眼しているが、刺激すると覚醒するか（Ⅱ桁）、③刺激しても覚醒しないか（Ⅲ桁）に分類。それぞれを 3 段階に細かく分類することから、3-3-9 度方式とも呼ばれる。

昏睡 coma
内的・外的刺激に反応しない無意識状態。臨床的には、単純な指示に従わない状態が持続し、Glasgow Coma Scale score は８かそれ以下。

【精神機能全般についての障害】

認知 cognition
物事の理解あるいは筋道だった思考を行う過程。

抽象概念 abstract concept
多くのものや、事柄や具体的な概念から、それらの範囲の全てに共通する属性を抜き出し、これを一般的な概念として捉えること。認知障害のある脳損傷者は、しばしば抽象的概念を理解することが困難である。

認知障害 cognitive dysfunction
認知機能を支える要素として注意・記憶・言語・視空間認知機能・構成能力・遂行機能などがある。認知機能が損なわれると、情報の受け取りや理解、道筋だった思考の過程にさまざまな影響を及ぼす。

認知症 dementia
脳の器質的損傷に基づく、社会的あるいは職業的機能を損なう程度の全般的で慢性的な知的能力の喪失。情緒、人格、行動もさまざまな程度に影響される。

器質性精神障害 organic mental disorder
脳外傷、脳血管障害、脳腫瘍、あるいは中毒などが原因で起こる精神障害。急性期には意識障害が主であるが、亜急性期・慢性期には健忘、感情障害、固執、不安、幻覚・妄想など、重症では認知症を示すことがある。

見当識 orientation
自分の置かれた環境や状況を知っていること。⇔失見当識 disorientation

見当識障害 disorientation
どこにいるか、いまが何時か、そばにいる人物が誰かなどが分からなくなっている状態。

意識障害 consciousness disturbance
意識障害は、覚醒（環境に応答する準備ができている状態）・気づき（特定の刺激を受け入れている状態）・自己意識（自らの意識を対象に向ける）のいずれかに障害がある場合をいう。

譫妄 delirium
譫妄とは、意識障害の一形態で、意識混濁に、認知機能の低下、睡眠障害などを伴う精神症状のことをいう。妄想、多動、不穏など精神運動興奮の強いタイプと、不活発で反応の乏しいタイプがある。

覚醒 arousal
脳の網様賦活系 reticular activating system（延髄から視床まで連なる脳幹の核となる部分）が脳皮質を活性化することで得られる基本的な意識状態。認知機能は、覚醒がある程度の段階まで進まないと働かない。

覚醒障害 disturbance of arousal
覚醒状態を示す反応は、「開眼しており、瞬きが見られる」「開眼しなくても言葉で応答がある」「開眼、言葉による応答がなくても、動作で対応する」などの反応が示されない状態が覚醒障害である。

無言無動症 akinetic mutism
随意的な運動や発語が無く、内的・外的刺激を認知していない。一見覚醒しているように見えるが、意識は障害されている。

無視 neglect
自分の身体や周囲の事物に注意をはらわない症状。

自己認識の障害 self-awareness
自己認識は自らを知る能力で、前頭葉の機能と考えられている。前頭葉に損傷を受けると、自己への関心を失い、自分の障害の性質と、障害がどのような事柄に影響を及ぼすのかについての認識に欠ける。

病識の欠如 disturbance of self-awareness
自身の障害に気がつかない、否認、無頓着。障害や自分自身についての認識が困難であると、主体的にリハビリテーションを行うことが難しくなる。また、自身の状態や周囲に合わせて行動を調整することも困難になり、社会適応を妨げる原因となりうる。

意欲減退 hyperbulia
うつ状態で反応が鈍化する場合と、「うつ」とは関連がなく、発動性が低下して自発的な行動が見られなくなる場合とがある。軽いものを静止状態（おとなしい状態）、極端な場合を無為と呼ぶ。自らの意志で行動を始めないことを強調する時には，自発性欠乏（lack of spontaneity）という。

注意障害 disturbance of attention/concentration
注意はすべての認知機能の土台であり、広く社会生活を営むためのあらゆる行動に含まれている。注意機能が障害されると、気がそれやすく、集中できなくなり、まとまりのある思考や会話などの活動に持続的に関わることが困難になる。

半側無視 unilateral neglect
脳損傷の反対側の空間あるいは身体の部分について注意を払わない症状。極端な場合には、無視側に着物を着なかったり、身体を洗わなかったりする。

【失行・失認などについての用語】

失行 apraxia
運動を妨げるような感覚障害や運動機能の問題がなく、行うべき運動やその目的を理解しているにもかかわらず、目的に応じた動作や物品の操作が正しく遂行できず、異なる動作をしてしまう症状。

ゲルストマン症候群 Gerstmann syndrome
左右障害・手指失認・失算・失書の４症状を呈する高次脳機能障害。

失認 agnosia

ある感覚（視覚・聴覚・触覚）様式からは、対象が何であるかわからない症状。例えば相貌失認では、よく知っている人でも、顔や表情を見ただけでは判らず、声や服装の特徴などで誰であるかを確認することができる。

地誌的障害 topographical disorientaion

よく知った場所や建物の風景に見覚えがなくなる街並失認と、道順を思いだせずに道に迷う道順障害とがある。

【記憶障害に関する用語】

記憶 memory

過去に獲得された情報（経験）の利用を可能にする精神機能のこと。

＜記憶システム＞

記憶:過程による分類

記憶には、①記銘 memorization（情報を認知し入力する）、②保持 retention（情報の貯蔵）、③再生 recall（入力された記憶情報を検索し、利用する）の３つの過程が考えられている。

＊記憶:保持時間による分類

即時記憶 immediate　memory

近時記憶　recent memory,

遠隔記憶　remote　memory

記憶の保持時間によって、①即時記憶（数秒以内の瞬間的な保持能力)、②近時記憶(数分から数日の記憶で、新しい記憶の獲得・学習能力に相当する)、③遠隔記憶（すでに獲得された過去のできごとに関する記憶）に分類される。相似した心理学的分類に短期記憶 short term　memory・長期記憶 long　term　memory がある。

＊記憶:損傷時期による分類

健忘 amnesia

記憶の喪失。発症前の出来事に対する想起障害は逆向性健忘。発症時点以後の記憶障害を前向性健忘と呼ぶ。

外傷後健忘 posttraumatic amnesia:PTA

脳の損傷後、数時間から数ヶ月の記憶を保つことができない状態。この期間に経験したことは、あとから思い出すことができない。

前向性健忘 anterograde amnesia

最近の出来事が想起できない。重篤な前向性健忘では数分前のできごと、行動、発言などのすべてを全く記憶できない。同じ質問を何度も繰り返し、新しいことの学習が成立しにくい。

逆向性健忘 retorograde amnesia

逆向性健忘は､発症前のできごとが思い出せない状態。社会的なできごとの記憶と個人に関連した記憶（個人史）とに分類される。新しい出来事ほど障害されやすい。

＊記憶：内容による分類

作動記憶 working　memory

ワーキングメモリーは、会話、読み書き、計算などの複雑な活動がスムーズに遂行できるように、必要な情報を一時的に記憶するシステムのこと。

宣言記憶 declarative　memory

学習によって獲得された事実や知識に関する記憶で、記憶の内容は言語的な表現によってイメージとして意識的に頭に浮かべることができる。

エピソード記憶 episodic memory

過去に経験した個人的出来事に関する記憶で、自分が「いつ」「どこで」「何をした」かという時間的・空間的に定位された生活史・社会事象。

意味記憶 semantic　memory

特定の時間・空間とは無関係な記憶で、繰り返し学習されることにより組織化された、言葉の概念などに関する一般知識のことで、思考の素材となる記憶。

非宣言記憶 non declarative　memory

コトバやイメージとして喚起され得ない記憶のこと。体験の反復により獲得した知識や、習熟した技能のようにコトバやイメージではうまく説明のできない記憶。自分でもうまく説明できない記憶。

手続記憶 procedual memory

反復的に学習し手順を意識せずに行うことのできる、熟達した行動や反応。自転車運転や楽器演奏、パズルをとく手順、碁や将棋の局面などのスキル。

プライミング　効果 primig effect

過去に体験したことが、後続の課題遂行を促進するような潜在的な効果を及ぼす現象。

展望記憶 prospective memory

何をなすべきか、予定に関する関する記憶。

メタ記憶 metamemory

自分自身の記憶がどのように機能するかについての知識や認識。メタ記憶が機能することで、メモをとることや・記録を見て過去の情報を確認するなど、現在の行動に反映する作業を行うことができる。

＊記憶：記憶素材による分類

言語性記憶障害

口頭で言われた情報を覚える能力。物語の再生などの障害がある場合を言う。

非言語性記憶障害

視覚的・空間的に提示された情報を覚える能力。図形の再生など。

【遂行機能障害】

遂行機能障害（実行機能障害）disturbed　executive functions

みずから行動目標を立て、その目標を達成にみあった

行動計画をたてることができない。安全の確保や、より有効な結果を導き出すための行動の見直しなどができず、行きあたりばったりの行動になる。社会的に孤立するような、脳損傷後の社会的技能／技術の喪失や人格変化を含む、複合的障害である。

【社会的行動障害】

情動 emotion
外部から観察できるある個人の情緒状態。

無為 abulia
意志を働かせたり、物事を決定したりしない。反応は遅く、自発性に乏しく、応答の言葉は短い。

無感情 apathy
脳の器質的な損傷によって情緒や意欲や計画能力などが障害されている状態。

発動性の低下 lack of initiation
人前では脱抑制的であっても､ひとりで放置されると、むしろ自分では何もしようとしない状態となる。

感情の平板化/情動鈍麻affective flattening or blunting
情動反応性の減少をさす。表情、仕草、適切な感情表現や乏しさに表れる。

感情失禁 emotional incontinence
些細なことで泣き出したり、笑い出したりする。場に応じて感情を抑制することができず、人前で表出してしまう状況。

多幸 euphoria
状態にそぐわず気分が高揚した状態。

ふざけ症 moria
他人と接するときに節度がなくなり、上機嫌、多幸、軽率な態度を示し、他人にかまわず、一人ではしゃぎふざける状態。前頭葉底部の眼窩に近い部分の損傷で起きると言われている。

不安 anxiety
心配、憂うつ、焦燥感という主観的経験。現在から将来についての過度の心配から恐怖感までの範囲がある。

抑うつ depression
ゆううつな状態が続き、なにもできない状態になる。大脳の左半球前方の病変による場合と、障害に対する自己認識が進むなかで、二次的に抑うつが生じる場合とがある。

衝動性 impulsivity
反省や熟慮をせずに欲求的行為や感情的行為を行ってしまうこと。

脱抑制 disinhibition
衝動的な行動や情動を抑制できない状態にある。

易怒性 irritable
ちょっとしたことで感情的になり、周囲に攻撃的な言動をとりやすい状況。容易にイライラして怒りが誘発される状態を指す。

人格変化 personality change
脳損傷による後遺症状として、これまでとは異なる性格傾向、あるいは以前の性格が先鋭化した状態が認められる。それらは刺激性，衝動性，脱抑制，感情的不安定，自発性低下，多幸性といった特徴のいくつかをあわせ持つもの。

依存性
こどもっぽくなり人にたよる。

行動 behavior
人が示す動作と反応の総体。

社会的行動障害 social behavior disturbance
社会的に孤立するような、脳損傷後の社会的技能／技術の喪失や人格変化を含む、複合的障害である。

自己洞察の欠如 lack of insight
過去、あるいは現在の精神状態や生活状況に対する自覚または、理解の障害。治療拒否、結果に対する見通しのまずさが目立つ。

固執 persistence
場面の変化に応じて柔軟に視点を変えられず、一つのことにこだわりはじめると､融通が利かなくなったり、周囲と協調できなくなる傾向にある。

問題解決能力 problem-solving ability
問題があることを認識し、さまざまな解決法を取った場合に、それらの結果に影響をおよぼす要素を分析して、最も効果的な解決方法を選択する能力。

情報処理 information processing
脳損傷後、情報処理や思考のペースが低下する現象は一般的によく見られる。複数の事象を同時に考えることや、思考をまとめる時に一時的に思考の材料を記憶にとどめておく機能の低下が主な要因として挙げられる。

思考形式の障害thought disorders
考えがまとまらず、的はずれな応答やまわりくどい表現。支離滅裂で、話題が脱線しやすく、一貫しない。

混乱 confusion
思考が、明晰さ、方向性、集中力などを欠いている状態。

作話 confabulation
脳損傷後の作話には、誤った記憶をつくろうために、相手との会話の中で誘発される作り話（誘発作話）が多く見られる。

コルサコフ症候群 Korsakoff syndrome
前向性健忘の障害が著明で、数分前のことも忘れる。近時記憶の障害著明。逆向性健忘もある、著しい作話症状を持つのが特徴。

前頭葉症候群 frontal lobe syndrome

前頭葉眼窩面の損傷では脱抑制、衝動性、ふざけ症あるいは多幸症、判断や内省の貧困化。前頭外側面では、無関心・感情鈍麻、保続、抽象的思考の困難、柔軟性の欠如，前頭内側面では、無動傾向、自発語の減少などが出現する。

常同的思考 sterotyped

思考の流ちょうさ、自発性、柔軟さが減る。生硬で繰り返しが多く、貧弱な思考内容。

保続 perseveration

同一の反応が不自然に繰り返され、持続すること。

適応障害 adjustment disorder

心理的ストレスに対する不適切な適応反応。

【訓練に関する用語】

認知リハビリテーション cognitive rehabilitation

知覚、記憶、思考、問題解決などの認知的問題に関する治療プログラム。障害の代償あるいは機能改善を図るための技能練習あるいは方策の教示を行う。的確な脳機能障害の評価に基づいて計画・実施される。

行動療法 behavior therapy

行動療法では、適応的でない行動は後天的に学習されたものと考え、誤学習した行動を消去・減少・変容するか、もしくは再学習により適切な行動を形成する。モデリングや認知行動療法などの技法がある。

行動変容法 behavior modification

行動療法の中で、オペラント技法を用い不適応行動の改善を図るアプローチ。例えば生活環境を整備したり、周囲の人々の対応に工夫をして、適切な行動に変えていこうとするもの。

構造化

環境をわかりやすく再構成すること。例えば、認知機能の低下で予測的な行動が苦手になっている人の適応能力の不足を補うために、視覚的に時間や場所、行動の手順・ペースなどを示し、その場面で何をすればよいのかを理解し、安心して自立して行動できるようにする。

代償

障害された機能を以前とは別の方法や手段に置き換え、同様の効果が得られるようにする。記憶障害には手帳やアラーム時計などを代償手段として用いる。

日常生活動作（活動）ADL – activities of daily living

清潔と健康維持のために個人が日常行っている入浴、更衣、食事などの動作（活動）。

生活技能訓練 social skill training：SST

個人の生活に役立ち、社会適応を促進し、周りに人に自然に受け入れられるような対人的・社会的行動の獲得を目指した訓練技法。

コミュニティースキル community skills

地域社会で自立して機能するのに必要な能力。たとえば電話、金銭管理、市街地移動、公共交通機関利用、食事の準備など。

作業療法 occupational therapy

機能自立、発達、障害発生の予防などの目的で、身辺動作、家事・職業、遊びなどの活動を治療的に用いる。環境へ最大限適応するために、あるいは QOL 向上のために代償的な手段を指導することもある。

職業評価 job analysis

ある人の職業に関して、作業行程、同僚との関係、作業対象、使用技術、使用機器、原料と製品、サービス、適性などを系統的に解析すること。

社会的不利 handicap

年齢、性、社会的、文化的観点から正常と考えられる人が、果たすべき役割を制限あるいは阻害される不利な状況。

【神経心理学的検査】

神経心理学的評価 neuropsychological evaluation

神経心理学的評価は、脳損傷後の脳機能と行動との関連性を的確にとらえ、障害像を明らかにするために行うものである。机上で行う神経心理学的検査は個々の認知機能を定量的に測定するものであるが、生活レベルで起こる問題を直接反映しにくい面もある。高次脳機能の適切な評価には、日常の行動観察を並行して行うのが通常である。

＊全般的な機能の評価

日本版ウェクスラー成人知能検査 Wechsler adult intelligence scale-revised；WAIS-R

成人用知能検査。検査は言語性が６種類、動作性が５種類の下位検査で構成されており、言語性 IQ・動作性 IQ 及び全検査 IQ が測定できる。認知機能の様相を把握するには、IQ 値だけでなく、下位検査の質的分析が不可欠である。

長谷川式簡易知的能力評価スケール：HDS-R

痴呆の簡易スクリーニング検査。見当識を含めたより広範な機能のスクリーニングとして、高次脳機能評価に用いることがある。

MMSE Mini-Mental State examination；MMSE

見当識・記銘力・計算・注意の把持・視空間認知・構成能力・書字・読解・理解力の要素を含む、簡便な知能のスクリーニング検査。点数は０－３０点で、２４点以上を正常範囲とする。

＊個別の認知機能の評価

日本版ウェクスラー記憶検査 Wechsler Memory Scale Revised：WMS-R

言語性記憶・視覚性記憶、記憶の基礎となる注意／集中力、記憶の保持力を検出する遅延再生力を測定する

ことができる。記憶障害の程度を客観的に把握することができる。

リバーミード行動記憶検査 River Mead Memory Test：RBMT

人名や相貌の記憶、約束事・道順の記憶など日常生活をまかなうために必要な記憶を評価している。２４点満点。９点以下では日常生活上の行動に肘や監視を必要とする。計画的な行動が可能となるのは１７点以上。

三宅式記銘力検査

言語的な記銘・想起の障害を検出する検査。

ウィスコンシン・カード・ソーティング・テスト Wisconsin Card Sorting Test：WCST

前頭葉機能である、推測と概念の切り替えを評価する検査。

遂行機能障害症候群の行動評価 Behavioural Assessment of the Dysexecutive Syndrome：BADS

課題を通して、目標の設定・行動のプランニングとその実行・効率性を評価し、日常生活上の問題点を抽出する。前頭葉機能検査である。

トレール・メイキング・テスト Trail Making Test：TMT

線結び課題で、PART（A）は数字順に、（B）は数字と文字を交互に結ぶ。（A）は選択的な注意、（B）は注意の変換が要求される課題である。いずれも処理の速度が必要となる。

パサット Paced Auditory Serial Addition Test：PASAT

聴覚的注意の検査。連続的に読み上げられる数字の足し算を行う課題で、注意の配分が必要となる。

【言語障害に関する用語】

標準失語症検査(SLTA)

失語症の有無、タイプ及び重症度を知る目的で行われるわが国で共通して使用されている言語検査の一つ。検査の所要時間は、ご本人の状態にもよるが、一時間から二時間を要する。失語症の評価・訓練・支援など、言語面でのリハビリに役立てることができる。

失語症

大脳言語野の損傷によって、ことばを理解(聴く、読む)したり、表出(話す、書く)したりすることが障害される症状。脳損傷が起きた部位や損傷の大きさによって、失語のタイプや重症度が異なってくるが、ことばのすべての面になんらかの能力低下があるのが普通である。また、計算能力も同時に障害されることが多い。

運動性失語

失語のタイプの一つ。話しことばの障害が中心で書字もおかされる、理解の能力は比較的保たれている場合が多い。特徴として、語彙能力の制限、文法障害、構音のぎこちなさ、話しことばの非流暢性、書字・読字の障害がみられる。同義語として、ブローカ失語、表出性失語、非流暢性失語などがある。

感覚性失語

失語のタイプの一つ。発語は流暢であるが、錯語が多く、語性錯語、字性錯語、ジャーゴン、新造語などがみられる。聴覚理解の障害が顕著で、語音の弁別が悪い面と、語音は正しく聞き取るが語音が意味に結びつかない面がある。患者によってその両面が複雑に混在している。同義語としてウエルニッケ失語、受容性失語、流暢性失語などがある。

ジャーゴン(jargon)

ある種のタイプの失語者が示す症状で錯語がひどくなった状態。音韻性ジャーゴンと意味性ジャーゴンにわけられ、前者では日本語の音ではあるが無意味音の羅列を示し、後者では、語としては日本語であるが、その場の発語に全くふさわしくない語の羅列を発するので聞き手には意味が分からない。

全失語(total aphasia)

聴く、読む、話す、書くというすべての言語機能が最重度に障害されている失語のタイプ。訓練を行っても、実用的な言語能力を獲得することはほとんど不可能である。しかし、緘黙状態とはちがって、残語や常同語がみられることが多い。

錯語(paraphasia)

喚語困難のために、表出すべき目標語とは異なった単語に置き換わる症状。他の語に置き換えられるものを語性錯語といい、本来の単語の中の特定音が他の音に置き換えられ変化する場合を字性錯語という。

構音障害

発音の障害。発声障害や抑揚（プロソディ）の異常なども含まれる。病気や怪我により末梢の構音器官の諸筋が障害されたり、構音器官を制御する中枢神経系が障害された場合におこる。また、発声・発語器官の運動障害が比較的軽度でも、高次脳機能障害による注意力などの低下により、話す速度が速まったり、プロソディが平板になったりして、会話明瞭度が低下する場合がある。

高次脳機能障害によるコミュニケーション障害

言語野や発語器官の運動能力に障害が見られない場合でも、様々な高次脳機能障害により、二次的なコミュニケーション障害をきたす場合がある。たとえば、多弁、話に一貫性がない（話が飛ぶ）、回りくどい、状況や相手の意図の読み取りができず場違いな発言をするなどの症状が見られ、結果的に円滑なコミュニケーションや意思の疎通が妨げられる。

コミュニケーション障害 communicative disorder

聴力、言語、あるいは構音などの機能障害によって起こり、言葉などのシンボルを利用したコミュニケーシ

ョン能力が損なわれていること。

代償的コミュニケーション alternative communication
音声言語以外の方法で行うコミュニケーション。重度の言語障害がある場合は、サインランゲージ、「はい」「いいえ」信号、ジェスチャー、絵、コンピュータ、コミュニケーションエイド機器などが、一時的あるいは長期的な代償手段として用いられる。

聴力計 audiometry
純音の種類や幅を把握する能力を量的に計測する方法。なお聴力とは、一秒間のサイクル数(CPS or hertz)と音の強さ(decibels)を感じ取ること。

【リハビリテーションに関わる用語】

リハビリテーション rehabilitation
外傷や病気の結果、機能障害を持つことになった個人に対して、最大限の知的および身体的能力を獲得できるよう援助する包括的プログラム。

リハビリテーション医 physiatrist
脳外傷者の医学的問題に正しい対応がなされていることを確認し、患者・家族・リハビリテーションスタッフへ正しい医学的情報を伝え、計画通りにリハビリテーション治療が行われるための役割を果たす医師。

臨床心理士 clinical psychologist
脳機能と行動の関係を神経心理学的検査などによって評価し、検査結果をリハビリテーションプログラムをすすめる共通の情報としてチームに提供する。その他認知障害に対する個別あるいはグループ訓練、行動障害への対応、患者あるいは家族に対する適応技術指導、障害適応を援助するためにカウンセリングなどを行う専門職。

理学療法士 physical therapist
筋力・筋緊張・姿勢・協調動作・耐久性などの運動能力、起きあがり・移乗・歩行などの応用動作能力を評価し、最大限の機能的自立が得られるよう個別の治療プログラムを立案・実行する専門職種。

言語聴覚士 speech therapist ：ST
脳の損傷により、言葉がうまく出てこない、人の話を理解できないといった症状や、発音が難しいといった障害を持つ人に、話す・聞く・読む・書くといった言語機能の回復を図り、より良いコミュニケーション方法を探るための訓練と援助を行う。嚥下や摂食障害の評価・訓練も行う。

【脳、組織、神経系についての用語】

前頭葉 frontal lobe
大脳の前部で計画、組織化、問題解決、注意の選択、人格などの高次の認知機能に関与している。

頭頂葉 parietal lobe
脳の一部分で、前頭葉の後方、脳の頂部にあり、感覚や運動に関する情報を処理する。

側頭葉 temporal lobes
脳の一部で、頭蓋内両側の耳のあたりに位置し、臭いや音の弁別、短期記憶、新しい情報の整理などに関与する。側頭葉の右側は、主として絵や顔などに関する視覚記憶に関与し、左側は単語や人名などの言語記憶に関与する。

後頭葉 occipital lobe
脳の後部で、視覚中枢がある。

脳幹 brain stem
脳の遠位で脊髄と接続する中脳、橋、延髄。脳幹には、呼吸や心拍など生存に必要な機能および覚醒水準の制御機能が含まれる。

中心溝 central fissure / rolandic fissure
前頭葉と頭頂葉の間にある、脳皮質が折り畳まれて深い溝となっている部分。

軟膜 pia
脳を包む３枚の膜の最も内側。

脳くも膜 arachnoid mater
脳と脊髄を被う３層の髄膜の２枚目。クモの巣のよに繊細な膜様組織なのでこのように名付けられている。

大脳半球 cerebral hemisphere
大脳の左右どちらか半分を占める大きな部分。

灰白質 gray matter
脳皮質を構成するミエリンに覆われていない神経組織。

脳皮質 cerebral cortex
大脳の表面を構成する灰白質（脳神経細胞）の層で、記憶や学習などの認知機能や運動機能などを制御する。

網様系 limbic system
脳深部の皮質で視床下部に接続し、記憶、情緒、性欲などを支配する。

間脳 diencephalon
両側脳半球をつなぐ部分で、脳下垂体を含む。
後頭葉 occipital lobe
脳の後部で、視覚中枢がある。

軸索 axon
神経線維の中心となる部分で、一般に神経細胞から末梢に向かって神経発射を伝える。

視床下部 hypothalamus
間脳の深部で脳下垂体との関連が深く、自律神経機能、摂食、性リズム、情緒、記憶などの機能にも関与する。

小脳 cerebellum
後頭葉の下面、脳幹の後方にある神経組織で、筋張力、協調運動、姿勢、歩行などの調整に関わっている。障害は、失調 ataxia を起こす。

脳室 cerebral ventricles
脳内にある空間で、脳脊髄液を貯めている。

脳脊髄液 cerebral-spinal fluid csf
脳室、くも膜下腔、脊髄中心管を満たす液体で、外的衝撃を吸収し脳及び脊髄を保護する。

脳神経 cranial nerves
中脳から出る１２対の神経で、頭部、頸部、あるいは内臓器官などを支配する。I.嗅神経 Olfactory 嗅覚、II.視神経 Optic 視力、III. 動眼神経 Oculomotor 眼球運動と瞳孔収縮、IV. 滑車神経 Trochlear 眼球運動、V.三叉神経 Trigeminal 味覚以外の顔面、口からの感覚、咀嚼筋の運動、VI. 外転神経 Abducens 眼球運動、VII. 顔面神経 Facial 顔面筋運動、涙腺などの支配、舌前 2/3 の味覚、VIII. 聴神経 Vestibulocochlear 聴力・平衡感覚、IX.舌咽神経 Glossopharyngeal 舌後方 1/3 の味覚、咽頭反射、中耳の感覚、嚥下運動、X. 迷走神経 Vagus 胸郭と腹腔内の内臓の副交感支配、内頚動脈と動脈からの感覚、言語・嚥下筋支配、XI. 副神経 Accessory 胸鎖乳突筋支配、XII. 舌下神経 Hypoglossal 舌運動。

自律神経系 autonomic nervous system ans
中枢神経系の構成要素で交感神経系と副交感神経系がある。消化、循環などの不随意的な身体機能の調整と統御を行う。脳の網様体が関与している。

抗コリン薬 anticholinergic drugs
副交感神経を経由する神経伝達をブロックする薬物。

神経伝達物質 neuro-transmitters
神経系で産生される化学物質で、神経細胞間の情報伝達の促進や遮断を助ける。

舌咽神経 glossopharyngeal nerve
第９脳神経。咽頭と舌後部の感覚と運動を支配する。

舌下神経 hypoglossal
第 12 脳神経。舌の前 2/3 を支配する。

前交通動脈 anterior communicating artery
前大脳動脈から発し、尾状核の血流を支配する。ウィリス動脈輪の前部を形作る。

前大脳動脈 anterior cerebral artery
内頚動脈から分岐し、脳前頭葉、脳梁、嗅神経、視索などに血液を供給する。

前庭機能 vestibular function
内耳前庭の三半規管などが頭部の動きを感じ取って、それに関する情報を脳に送り、身体の平衡や固視に関与する機能。

体性感覚 somatosensory
身体固有の状態を脳に伝える感覚活動。

知覚 perception
環境から入ってくる視覚、聴覚、味覚、嗅覚器官などの入力刺激に意味づけをする能力。知覚障害は軽微なことが多く、患者や家族はその障害に気づかない場合がある。

引用文献

神奈川リハビリテーション病院脳外傷リハビリテーションマニュアル編集委員会：脳外傷リハビリテーションマニュアル，pp.146－155，医学書院，2001